中日新聞（2025年6月2日付）

掲載記事は中日新聞社の許諾を得て転載しています。

新鋭・林 初舞台で収穫

トライアスロン

世界最高峰シリーズ参戦

初めて挑んだ大舞台で確かな手応えを得た。5月17日の横浜大会で世界トライアスロンシリーズ（WTCS）デビューを果たした林愛望（まなみ＝日本福祉大・まるいち、愛知県西尾市出身）が、日本勢2番手の25位でゴール。次世代のエースと期待される20歳は、第一人者のアドバイスを胸に横浜の街を駆け抜けた。

WTCSは各国で行われるレースを転戦してポイントを獲得し、年間王者を決める世界最高峰のシリーズ。横浜大会は横殴りの雨が続く悪天候の中、女子は42人がレースに臨んだ。

第1種目のスイム（1・5キロ）で、トップから20秒以上離された林は、続くバイク（37・23キロ）で粘って先頭集団に合流。最後のラン（10キロ）で遅れて上位進出はならず、日本勢の中でも東京、パリ両五輪代表の19位に及ばなかったが、「想定以上の位置でスイムを終えられたのは収穫。まだまだランの強化は必要だと実感させられた」と振り返った。

2022年の日本選手権を史上最年少の17歳で優勝。昨年は海外のレースで実績を積んだが、今大会は「周りはテレビで見る選手ばかりで緊張していた」。その様子が目立ったのか、スタート直前、に「怖がらず、楽しんで」と声を掛けられた。世界の強豪と競ってきた33歳のベテランからの一声で心を落ち着かせた。

トライアスロンは男女ともに五輪で日本勢がメダルを獲得していない数少ない競技の一つ。上位陣の顔触れに変化が少なく、若手の台頭が待たれる中、28年ロサンゼルス、32年ブリスベン五輪での活躍が期待される林は「良い経験になった。自信を持ってこれからもレースに臨んでいきたい」と今後を見据えた。

（酒井翔平）

世界シリーズ横浜大会のバイクで力走する林愛望＝横浜市山下公園周辺特設コースで

（許諾番号:20250605-32437）